

いつも着古したジャケットにジーンズのスボン、お尻のポケットに革の財布。足はウォーキングシューズ、右肩に黒いリュックをぶら下げている。リュックの外側のポケットに小銭入れ。

小銭入れには小袋が四つあって、おかねの単位にに応じている。一・五十円クラスがⅠ、百・五百円クラスがⅡ、千円札五枚がⅢ、五千円札二枚がⅣに入っている。お尻の財布には一万円札が三枚。実はリュックの内側のポケットにもおかねが入っていて、万札が五枚。

それぞれに名前がついていて、小銭入れは丸っこいタマ状をしているところから、ドイツ語でボックスボイテル、「山羊のふぐり」の意味。円形をしたワインの瓶にいう俗称を拝借した。お尻の財布は「本妻」で、リュックの内側にひっそりしているのが「隠し妻」。

おおかたの日常は「山羊のふぐり」でまに合って、たまに「本妻」の手を借りる。「隠し妻」が表に出ることはめったにない。出かける前に三つを点検して、足らずを補充する。二十年間、このやり方でやってきた。だからおかねを意識するのは、補充のときのほんのいつときだけ。あとは一切考えない。

貧乏な家に育った。父が早くに死んで、母と五人の子が残された。世間は「弱い家族」をよく知っている。二度騙されて田や家作を



絵・江口修平

忘れている

池内 紀

失い、一度盗難にあった。幼いころ、畳をたたいて泣いている母親の背中を何度か見た。その母も大学生のときに失った。

二十代の半ばに大学の教職にありつき、やっと生活が安定した。大学の教師はアキの日に「アルバイト」と称して、よその大学に教えに行くものだが、たのまれても断った。ヒマがあるからこそ選んだ職を、小金稼ぎでつぶしたくない。公務員宿舎をすすめられたが、これも断った。同僚と顔を合わせるのは職場のみ。日常まで一緒にマツピラだった。高いアパートに住み、稼ぎが悪いから生活は苦しかったが、好きな時間を好きなように過ごせる。おかねはないほうが自由であることがよくわかった。

片手間に文筆を始めたところアブク銭が入って来る。それは貯金した。三十年たつて、一定の額に達したとき、早目に退職した。おかねは自由を得るためにある。それ以外の効用は、ほんのつけたし。

クレジットカードがあらわれたとき、すぐに手に入れた。このごろは三点セットの定番もトンと少なくなった。カードだと金銭感覚ゼロで処理できる。金銭経済の世の中にあつて、おかねのことを忘れてるのが、もっとも金満家ではなからうか。



いけうち・おさむ ● 1940年
兵庫県姫路市生まれ。ドイツ文学者・エッセイスト。